
少しずつでいい

syo

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

少しずつでいい

【Nコード】

N0310BA

【作者名】

syo

【あらすじ】

平凡な中学生が急に一人暮らしすることになった。
幼馴染、超気を含む大親友、昔の知り合いの転校生などにささえられながら織りなすスクールライフ。

プロローグ（前書き）

初めて完全オリジナルに手を出しました。
おかしなところなど大量に出てくると思いますが
ぜひよろしく願います。

プログラー

「やべ、遅くなった……」

俺は高城零斗。どこにでもある普通の中学三年生だ。

まあ少し勉強ができる程度で顔普通、スポーツ普通の受験生。

今日は始業式、午前で終わった後に新しいクラスで親睦会をして遅くなっていた。

「晩飯用意してって電話すればよかったなあ……」

気持ち早めに自転車を漕ぐ、飯が食えなかつたら死活問題だ。そんなことを思いながら我が家につくと、明かりは消えている。

「どっか出掛けてんのかな？」

鍵を開けて家のドアを開くとなにか違和感がある……

何かよくわからないまま自分の部屋へ行き、見渡しても普段と変わらない。

しかしリビングに入った瞬間その違和感に気付いた。

「え？え？」

ない。まず弟と妹の勉強机。リビングの奥に見える父さんの書斎も見る限り空だ。

棚にあった壺や、母さんの趣味でかけてあった壁の絵も何もかも、ない。

「泥棒！？やばいぞこれは……」

すぐに電話しようと受話器に近づくと、横のメモ帳に何か書いてあった。

『ごめんね零斗、私たち急にアメリカに転勤しなきゃいけない、帰ってくるの遅かったから行っちゃった。お金とかは彗ちゃんとお母さんに任せてあるから、心配しないでいいよ』

「ええええええええ！！！？？！？」

これが、俺の波乱に満ちた……いや、波乱しかない最後の中学生生活の始まりだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0310ba/>

少しずつでいい

2011年12月31日19時48分発行